

中野区教育委員会会議録 平成26年第28回定例会

○開会日 平成26年10月17日(金)

○場 所 北中野中学校

○開 会 午前 10時30分

○閉 会 午後 3時52分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	小 林 福太郎
中野区教育委員会委員	渡 邊 仁
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	奈 良 浩 二
副参事(子ども教育経営担当)	辻 本 将 紀
副参事(学校再編担当)	石 濱 良 行
副参事(学校教育担当)	伊 東 知 秀
指導室長	川 島 隆 宏
副参事(就学前教育連携担当)	古 川 康 司
副参事(幼児施策調整担当)	濱 口 求
副参事(子ども教育施設担当)	伊 藤 正 秀

○担当書記

子ども教育経営分野	片 岡 和 則
子ども教育経営分野	高 橋 綾 菜

○会議録署名委員

委員長

小 林 福太郎

高 木 明 郎

○傍聴者数 27人

○議事日程

[協議事項]

(1) 学力について考える～保護者、地域、学校の連携で支える学力～（指導室長）

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

[その他事案]

(1) 北中野中学校訪問

中野区 教育委員会
第28回定例会
(平成26年10月17日)

午前10時30分開会

小林委員長

おはようございます。教育委員会第28回定例会を開会します。

本日の委員の出席状況は全員出席です。

本日の会議録署名委員は、高木委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配布の議事日程のとおりですが、このあと、会議を一旦休憩して、午前中に北中野中学校の授業視察を行い、午後に会議を再開して、北中野中学校を会場として「地域での教育委員会」を開催し、付議案件についての協議等を行いたと思いますが、御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長

御異議ありませんので、そのように議事を進行いたします。

それでは、これから「北中野中学校訪問」を行いますので、定例会を休憩します。

午前10時30分休憩

午後1時45分再開

小林委員長

それでは、定例会を再開いたします。

皆様、こんにちは。ただいまから地域での教育委員会を開催いたします。

初めに傍聴の許可についてお諮りいたします。教育委員会の会議における傍聴人の数については、中野区教育委員会傍聴規則第3条により20人以内と定められております。本日は傍聴を希望される方が多数お見えになっておりますので、同規則第3条ただし書の規程により、20人を超えて傍聴することを認めたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

小林委員長

ご異議ありませんので、20人を超えて会議を傍聴することを認めることに決定いたしました。

本日の地域の教育委員会は、中野区において開かれた教育行政を一層推進するために年2回程度、区役所以外の場所に会場を移して会議を開催しているもので、本日で26回目の開催となります。本日は午前中に北中野中学校を訪問しまして、3・4校時の授業視察を行いました。引き続きこの北中野中学校を会場として、地域の教育委員会を開催し、付議

案件の協議等を行ってまいりたいと思います。

会議の進行につきましては通常の教育委員会と同じように進めてまいりますが、本日の協議事項、「学力について考える」の協議の途中で会議を一旦休憩し、この協議テーマに関して傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思います。その後、会議を再開し、いただいたご意見も参考にしながら引き続き協議を深めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、日程に入ります。

<協議事項>

小林委員長

協議事項「学力について考える～保護者、地域、学校の連携で支える学力～」についての協議を行います。

事務局から説明をお願いします。

指導室長

それでは本日のテーマ、「学力について考える」のご協議をお願いしたいと思います。正面のスライドを使って説明します。

お手元にきょう説明するスライド、学力テストの問題、授業改善プラン、全国の学力学習状況調査の生活と関連する資料をお配りしておりますので、スライドが見つらい部分についてはそちらをごらんください。

学力というのは非常に幅広いとらえ方ができると思います。きょうは地域での教育委員会ということもありますので、サブテーマを「～保護者、地域、学校の連携で支える学力～」としましたので、幅広い視点でのご協議をお願いしたいと思います。

学力は様々な定義がありますが、文部科学省が定めている定義がこの三つです。一つ目が基礎・基本的な知識・技能で、ものを知っているかとか、やり方がわかるかという部分。二つ目として、課題を解決するために必要な思考力・判断力、表現力等の部分が、日本の子どもたちに足りないと言われていて注目を浴びているところです。

三つ目が学習意欲です。学習意欲と学力がどう関係するかというところですが、意外にこれが大切でして、これがないとなかなか学力につながっていかないところがあります。教員はこのやる気を起こさせるのが一番難しいといえます。

学力に関する調査を全国や東京都、中野区独自でもやっております。正面に出しているのは中野区独自でやっている学力調査です。小学校2年生から中学校3年生までというこ

とで、学年によって教科が変わってきます。4月に実施をしていますので、例えば中学校1年生には英語は入ってきません。4月にやるので内容は小学校の6年生の問題という形になってきます。

上にその目的が三つ書いてあります。一つは子どもたち自身が、どこができて、どこに課題があるのかをきちんと捉える。二つ目が学校です。自分の学校の子どもたちがどこまで身につけていて、どのあたりが欠けているのかということを知って、それを授業改善に生かしていく。三つは教育委員会サイドの話になりますが、さまざまに立てている施策が子どもたちの改善に役立っているのか。又はそうでなければ施策を改めなければいけませんので、そのための資料としてやるということです。

この学力テストはどれもそうですが、何点だからよかった、何点だから悪かったということを知るためにやるものではなくて、どこに課題があつて、それをどのように直していくかというその大もとの資料、現状をつかむものとして学力調査を実施しているのご理解いただければと思います。

学力調査はどんな問題かです。中野区でやっている学力調査は著作権の関係でお見せできませんが、お手元に全国の学力学習状況調査があります。公表するとかしないとかと話題になっているものをお配りしておりますので、お手元の資料をごらんください。

1枚目が小学校6年生の国語の基礎的・基本的な内容という問題になっています。国語の問題ですが、グラフになっています。これは非連続型テキストとスライドにもありますが、文章としてつづつあるものから読み取るのではなくて、非連続型テキストから読み取るのもこれからの国語の力としては大変必要だということです。そのグラフを読み取って、その下がノートの一部で、年代ごとの割合からわかることということで、四角の中に言葉を入れていく問題です。皆様にもお考えいただければと思います。

「16さいから19さいまでのわり合では、『見れた』が『見られた』を大きく」では、多分「上回る」というような言葉が入ってくると思います。その下に20代、30代の話があつて、最後に「60さい以上でのわり合いを比べると、『見られた』が『見れた』を、これも多分同じ答えになってくると思いますが、「見られた」と「見れた」が一番最初のアのところと入れ替わっているところをきちんと読み取らないといけないということです。

最後に「<全体から分かること>」「16さいから60さい以上までの『見られた』と『見れた』のわり合いのちがいをまとめる」ということで、裏側にその問題が出ておりますのでごらんください。

40字以上50字以内でまとめて答えるという形で、冒頭お話ししたようにグラフから読み取って、その特徴をきちんと言葉で表現するというような問題になっています。

私たちが子どものときは、長い文章を読んでそこから何か答えを見つけるという問題が多かったと思いますが、最近はこのように変わってきていることを一つ知っていただければということでお示しました。

もう一枚が、女の子が歩いている「ウォーキングで運動不足を解消！」という問題ですが、これは中学校3年生の活用能力、考える力を試す問題になっています。その真ん中ぐらいに、歩くペースの決め方ということで、「目標心拍数＝ $88 - 0.4 \times (\text{年齢}) + 0.6$ (安静時心拍数)」という形で式が出ています。ここに書いてある内容をまずきちんと読み取って、裏側に問題が出てきます。

優子さんはまず自分の目標心拍数を計算してみることにしました。優子さんは15歳です。安静時心拍数を求めたら80でした。優子さんの目標心拍数を求めなさいという問題で、年齢と安静時の心拍数が出ていますので、表面の真ん中の四角で囲んである公式にきちんとその数字を当てはめていけば、目標心拍数が出てくるといったような問題になっています。文章で書いてあるのではなくて、こうやって資料が示されていて、それから読み取って問題文に合わせて答えを出していくといったような問題になっています。

今の裏面の問題の一番最後の(3)をごらんください。「優子さんは」ということでずっと問題が出ています。最後に「また、それが正しいことの原因を、前ページの目標心拍数を求める式をもとに説明しなさい」となっています。答えはアかイかどちらか自分でまず選んで、それをきちんと説明しなさいということです。

先ほどの小学校の問題は国語なのにグラフを読み取るという算数みたいな問題ですし、こちらの問題は算数・数学の問題ですが、最後は言葉で説明しなさいということで、一見逆転しているように見えるのですが、そういうことが今、子どもたちに求められている学力だということがおわかりいただければと思ってお示しました。

それではまた正面のスライドをごらんください。

問題は全国の学力状況調査でご説明しましたが、中野区の学力調査に関する結果を見ると、このような課題が浮かび上がってきます。まず、基礎的・基本的な学習内容については、そこに書いてあるようにおおむね定着は図られているのですが、理科と社会が基本的・基礎的な部分で本当は知っていなければいけない用語などの理解が不足しているという特徴がございます。

それから、活用する問題も理科、社会に特化してくる話ですが、幾つかの資料を基に考える。先ほどの数学の問題にも共通すると思いますが、資料を基に考えたり記述したりする問題が苦手だという傾向があります。

また、理科では観察・実験の結果を基に考えるところが、やはり自分の言葉で説明することに少し課題がある。こういう課題を踏まえてどうするかというところで、右側に二つ挙げております。

まず、基礎的・基本的なところとは、やはり興味、関心を持って調べるという作業をしていかないとなかなか理解に結びついていかない。一方的に暗記することはやはり定着には結びつかないということがあります。

幾つかの基本的な言葉を学習したらそれを使って説明する。先ほどの問題にもそういうものがありましたが、それを活用することできちんと定着を図っていくのは、やはり学習形態を工夫していかなければいけないということが一つあります。

活用する問題については、先ほど数学の問題でもお話ししましたが社会科に限らない。資料を基に目的に合わせて読み取っていくというようなことが、理科では実験の結果では、リトマス紙は色が変わったということではなくて、そこからわかること、言えることをやはり言語化していく。言葉で説明する。

きょうは北中野中学校の授業を視察させていただきましたが、やはり自分の言葉で説明するような学習形態を取り入れている授業が多く見られたと思いますが、こういうことを積み重ねていくことで活用する力を育てていく必要があるということです。

ざっと結果をお話しします。平成24年度、25年度、26年度ということで、これは国語です。横に小学校2年生から一番下が中学校3年生という形で並んでいます。網かけは目標値を70に置いていますので、それがどのくらいあるか。白いところは課題と理解をしていく形です。

国語はおおむねよしというところかと思えます。ただ、小学校の低学年で書く力がまだなかなか育っていないというところは一つ課題だと思えます。

算数・数学です。ここは中学校の会場で大変申しわけないのですが、小学校は比較的色彩が変わっていますが中学校になると落ちてしまう。これは様々な進学の事情等があるといえると思います。ただ、中学校1年生の部分については小学校の責任ですので、そのように捉えなければいけないと思います。

先ほど社会と理科の課題があるとお話をしました。思考力、表現力、資料の活用、知識・

理解、どれも課題が大きいと思います。

理科についても同様の傾向が見られます。これについては後ほどご説明しますが、各学校が様々な対応をしておりますので、後ほどご説明したいと思います。

英語は中学校2年生と3年生だけということで、昨年度まではよかったのですが、今年度の結果は課題が見られたと思います。

よかった、悪かったということではないと冒頭にご説明しましたように、個人は別として学校はどうするかということです。自校の結果をどこがよかったか悪かったかと分析して、授業改善プランを作成して日々の授業改善を図っています。

この授業改善プランは、どの学校でも作成していますので、そろそろ学校からそれに関する説明のプリントが出るとか、又は学校によっては説明会を開いているような学校もあると思います。

個人面談等で、その結果を基に個別に、例えば〇〇さんはこういうところに気をつけましょうというような時間を設定している学校も多いと思います。

私ども教育委員会としてはということで3点ほど挙げさせていただきました。一つは区全体の傾向を分析して、それをホームページ等で公開する。各学校は授業改善プランをつくる上でベースとなるそういう資料を作成して各学校に提供する。これについても報告書を作成して提示するという形になります。

授業改善プランとはどんなものかということで、お手元に小学校の例を一つ、中学校の例を一つお配りしてあります。

まず、小学校2年生の授業改善プランということで、左側に国語、算数、生活、音楽、図工、体育という形で教科面があって、学力調査から浮かび上がる部分、それから日頃の授業の様子から浮かび上がる部分についての現状分析がされています。

大切なのはその矢印のところ、学校での取り組み、家庭学習のポイントということで、保護者の方にもわかっていただくというように示されています。

裏面が小学校5年生の同様の授業改善プランということで、教科が多少入れ替わっていると思います。こういうところを一つ一つ捉えていって、授業を改善していくことになります。

ある中学校では教科ごとに1枚ずつつくっているということで、国語の例、裏面が社会の例をお示ししました。中学校2年生の国語をごらんください。授業改善プランの矢印の先です。班内での発表や班ごとの発表など発言する機会をふやす。二つ目として説明的文

章の要旨のまとめを授業中の課題や定期考査で取り入れて、内容を正確に捉える力を伸ばしていきます。その基になっているのは、左側を見ていただければ、その現状分析からそういう必要性が出てくることがおわかりいただけると思います。

2年生の国語でいいますと、中野区の学力調査の結果から教科全体の到達度では全てにおいて基本値をクリアしていますし、全体的には落ち着いて授業に臨んでいます。

その右側に、授業中に積極的に発言する生徒が固定化する傾向にある。説明的文章の読解がやや苦手ですというような考えを踏まえて、右側の班ごとや少人数での発表などを授業の工夫として取り入れていくようなことを進めています。

それではまた学力に戻っていただきます。先ほど申し上げたこの3点で、基礎的・基本的な知識・技能とはということで、おわかりのように読み・書き・計算の能力、知識というところは少し難しい言葉で「形式知」と「暗黙知」があります。

形式知はいわゆる言葉とか文章、図や表がわかる。暗黙知とは、そういう学習を重ねることで直観力とか知恵が育っていくというようなものを基礎的・基本的な知識と捉えてきました。そのために下に5点ほど書かせていただきました。

一つ目が体験的な理解や具体的なものを活用したような学習が必要です。一つ飛ばして、体験と理論の往復は、「体験した」「楽しかった」で終わってしまうのではなくて、それはどういう意味があるのかという理屈の部分です。いけないのは理屈だけ教えて、実際にそれを裏づける体験がないことが、なかなか定着に結びつかないということです。

これは小学校の授業です。この長いものは何だと思われませんか。これは腸の長さがどれくらいあるかという授業をしています。これは養護の先生ですが、腸の長さは大体6メートルとか8メートルで、ズルズルと出してきてこれだけ長くなるんだよということを見せる。

先ほど体験的理解が必要、具体物の活用が必要だというお話をしたのですが、ただ腸は身長は何倍くらいとか、何メートルくらいですということをお教えるのではなくて、これだけあるということをお具体物を使って、授業を進めていくという工夫をされています。

これは中学校の理科の授業です。水溶液に何と何が混ざっているという画用紙に元素記号が書いてあって、それを説明しているようなところです。これは先ほどの体験と理論の往復というところです。理科の実験室で実験したというのが一つの体験になりますが、それがどういう意味を持っているかをきちんとここで裏づける。ここで裏づけたことが実際の現象とどう結びつくかをやはりもう一回フィードバックすることで、理解がより深まる

ということです。

思考力・判断力・表現力ということで4点ほど書かせていただきました。体験から感じ取ったことを表現する。二つ目が事実を正確に理解して伝達する。こういう活動が必要。情報を分析し論述する。互いの考えを伝え合うということで、実際の授業の場面を一つずつお見せしたいと思います。

まず、これは自分が育った小さいときの様子をお母さんやお父さんから聞き取って、カードにまとめているところです。聞き取った体験を言葉にすることによって、それを確実なものにしていく。

これは社会科見学とか生活で見学に行ったときに撮った写真を今、これはどうだったかと2人でどのように説明しようかと相談している場面です。そこで学んだことを次に説明してあげていく。

これは中学校の理科の授業です。やはり自分たちがやったことを説明に結びつけていくということ。

最後はディベートの形で、多分パネルディスカッションだと思います。一つのテーマについてAさん、Bさん、Cさん、Dさんが話をしながら話題を深めていくというような授業の形態を工夫することによって、考える力とか判断する力、表現する力を育てていくという例です。

一番難しい学習意欲を育てていくためにということで、一つが学習習慣を確立させること。二つ目がわかる喜び、三つ目が学ぶ意義、四つ目が具体的な目標ということです。学習習慣のキーワードは小学校の低中学年で、この時期を外してしまうとなかなか習慣化が難しくなりますので、小学校の早い段階から取り組むことが重要です。

わかる喜びは、比較的理解が早いお子さんはいいのですが、そうではなくてつまづいてそのままになっていくと、なかなかわかる喜びに結びつきませんので、そのためには補充的な学習などに取り組む必要がある。特に基礎的・基本的な知識や技能です。技能でいうと例えば計算などが必要なことです。

学ぶ意義は難しいのでその先に行きます。具体的な目標を設定することも必要です。中学校などでは漢検とか英検というような具体的な取組目標を決めて子どもたちが頑張る。また、小学校では学習カードとか賞状などを出すことで成果を確認させるというような工夫をしていると思います。

「学習を支えるもの」というのがきょうの一つのキーワードになっています。学習は知

識や理解、考える力などですが二つあります。これは学校の問題になりますが、一つは学習規律をきちんと確立させる。きょうの北中野中学校の授業を見ていまして、これが確立されていますので、先生の指示がきちんと通っているという印象を受けました。

もう一つが学習習慣です。先ほど小学校低学年がキーワードというお話をしましたが、学習習慣の定着が必要になります。このベースとなるものは学校だけではなくて、家庭の保護者の皆様とも協議をしていくことが必要だろうということです。

学習規律についてある大学の先生が説明をしてくれました。学習規律の確立により落ち着いて考えたり、お互いに学び合ったりする学習活動が充実する。きょうの北中野中学校の授業では、やはり子どもたちが落ち着いて考えたり、お互いに学び合ったり、意見を聞きながらそれについてディスカッションするというような場面が見られました。

その結果、考える力、思考が深まっていく学習が展開されるということになります。ですから、学習規律はやはりきちんと押さえなければいけないということです。

一昨年度に中野区教育委員会が学習規律のパンフレットを学校にお配りして、それを徹底させてくださいと載っているのですが、ここに書いてあることは本当に当たり前のことです。きちんと授業の準備をすとか、忘れ物をしたら先生にきちんとそれを言うとか、チャイムが鳴り終るまでに着席すとか、そんなのは当たり前ではないかと思われるかもしれませんが、これが本当に学習を支える基礎的な部分です。もしこれができていなければ、学校もそうですし、保護者の皆様も協力してきちんとこれができるようにしていく必要があると思います。

ここにお示ししたのは家庭学習の手引です。これも一昨年11月に各ご家庭に1枚お配りして、これについては学校からの説明もあったのではないかと思います。少し小さくなっていますので、家庭学習の進め方と家庭学習のポイントについて説明します。

真ん中の部分は家庭学習の進め方ということで3点です。まず何をやらせればいいのかということですが宿題をやらせる。宿題が定着してくれば、自分で何か自由勉強という形で自主学習に取り組ませる。

三つ目も家庭学習なのかということもあるのですが、次の日の準備を必ずする。前の日に時間割をそろえる。例えば、定規が要るということであれば、次の日は長さの勉強になることがわかると思いますが、これは自己管理能力という意味では非常に大切なものになると思います。

小学校でよく校長先生方がお話をされるのは、学年掛ける10分ですから、5年生だった

ら50分になります。中学校だとドンとステージが上がります。2時間から3時間程度が目安です。きょうは給食をお昼の時間に生徒と一緒に食べさせてもらったのですが、ある教室では中学校3年生は4時間ぐらい勉強しているというお話を聞いてきたそうです。やはり2時間ぐらいは勉強しておく必要があると思います。最初は復習から始めていくことが必要だと思います。

では、自己管理をしていかなければいけないということで、学校から戻ったら1日の生活をどのように組み立てるかということも、これは曜日によって多分変わってきますし、部活動などで時間を上手に扱っていくということも出てくると思いますが、やはりこういうものをつくって自分を適応させていくことも必要なことだと思います。

家庭学習のところでお話ししましたが、生活習慣と学力との関係について資料を配らせていただきました。番号がついていますが、お手元の資料の番号に一致していますのでごらんください。

1番目が朝食を食べているかということと学力の定着との関係です。一番左側が「している」ですから朝食を食べている。一番右側が全く食べていないということで、やはり食べているお子さんと食べていないお子さんでは、それぞれの問題でこれだけの差が出てきています。

裏面の4番目をごらんください。「1日当たりどれぐらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしていますか」では、一番左側が4時間以上、一番右側が全く見たり聞いたりしていません。一番右側にへこんでいる部分がありますが、大体反比例というか、時間との関係がそこで明らかになっています。やはり4時間以上見ているということは、余り勉強する時間がとれないと思います。

3ページの下の段の6番です。ふだん1日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするかです。これも見ていただくと4時間以上、一番右側が全くしていないですが、先ほどのテレビやビデオと同様の傾向があります。

今はテレビやビデオよりも、子どもたちはインターネットとかスマートフォン等で、保護者がわからないところでそういう時間を過ごしているところも一つの特徴かと思います。

4ページの7番、8番は両方ですが、学校以外でどのくらい勉強していますか。一番左側が3時間以上、一番右側が全くしていないで、20ポイント以上の差が出てくることがわかりいただけだと思います。やはり家庭で学習を一定時間していくという習慣を小さいうちからつけていかないと、なかなかきちんとした学力の定着には結びつかないというよ

うなことが、この調査からもおわかりいただけると思います。

きょうはこの後、学校での勉強とか家庭学習を支えているという様々な取り組みをされている例がこの地域で多々見られますので、きょうはその学校の校長先生が傍聴にお越しいただいております。この中身については私が説明するのではなくて、武蔵台小、上鷺宮小、鷺宮小、北中野中学校で、地域の方たちと協力してどのような学習を支える取り組みをしているかを後ほど傍聴者発言の時間中にご報告いただきたいと思います。

学校、家庭、地域ということで、それぞれ役割があるかと思います。学校ではやはりわかりやすい授業、個に合わせた指導、基礎的・基本的な内容の習得ということで右側がそれに必要な活動です。

ご家庭ではということで、先ほどの繰り返しになりますが、規則正しい生活、家庭学習の習慣化、我が子への目配り・気配り、コミュニケーションというところでしょうか。地域ではお願いということになってしまいますが、放課後とか土日に勉強を教えてくださいということではなくて、文化的な活動を充実させることもとても大切なことになると思います。こういうそれぞれの役割を総合して、子どもたちの学力を向上させていくことにつながっていけばいいと考えております。

長くなりましたが、私の報告は以上です。

小林委員長

それでは、各委員からご質問、ご発言がありましたらお願いします。

渡邊委員

今回の中でいろいろな取り組み方とかということで、最初のところで出ていたとおり、学力調査の結果がすべてではないということでした。今回中学校でやっているのが、中学校がほとんどのところについて目標を達成できなかったといっても過言ではないような結果になってしまったわけです。その考察的なところは聞き取れなかったのですが、小学校についてはいつもどおりということですが、中学校の結果について考えられる理由がもしありましたら教えていただきたいと思います。

指導室長

社会科がことし悪かったと先ほどご説明しましたが、例えば複数の資料、地図とグラフを読み取って、そして選択の問題でもどれでもいいのですが、どれか答えを選ぶというところで、やはり日ごろの授業でその資料を読み取るようなことを積み重ねていれば多分解けるだろうという問題の正解率が高くなかったという特徴があります。

翻って考えますと、先生が説明型の授業をしている。このグラフからはこういうことがいえるよね、このグラフからこういうことがわかるよねということを先生がしゃべってしまっただけは、子どもがその資料を読み取って考えていく力には結びついていかないということですので、やはり日ごろの授業のあり方を、例えばその問題からは改善するところに結びついていくのではないかと思います。

渡邊委員

確かに教員としては、いろいろな指導の内容があったと思います。今回としては、サブタイトルに保護者、地域、学校の連携が支える学力ということで、やはり家庭学習が落ち込んだということは、意外に大きな要因になるとか、そういうようなことは聞こえてはこないですか。やはり家での学習時間が減ってきているのではないかとか、そういうような声はどうでしょうか。聞こえてきているものではないでしょうか。

指導室長

学力調査の結果が家庭学習の時間とどうかというところは、客観的なデータは持ち合わせておりませんし、教員の立場からやはり自分の指導方法をもう一度振り返ることが必要だと思います。

ただ、今、家庭学習の関係だということであれば、例えば宿題を出してそれをやっている、やってこないというところは、やはり家庭にお願いしていく部分はその後の問題として出るかもしれませんが、学力調査の責任はやはり一義的には学校、教務指導にあると考えます。

渡邊委員

ありがとうございました。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。

大島委員

学力についていろいろ指導室長からもご説明がありましたし、私も常々どうしたものかと考えてはいるのですが、なかなか一朝一夕にこれをやれば解消するなんていうような答えはないと思います。いろいろな原因が複合的にかかわり合っているのだらうと思います。

的を射たことかどうかわからないのですが、私の個人的な感想としては、やはり学力は数学、国語、社会でも何でも結局、日本語で成り立っているものだし、何かを答えるにしても日本語でやるので、その言葉の能力というのが昔はよかった的なことは余り言っては

いけないのかもしれないですが、どうも落ちているのかなと思ったりします。

一つは本を読まなくなったというか。今と昔で1日の生活の中で学校での授業時間というのはそんなに変わっていないと思いますが、それ以外の時間の過ごし方が全く変わってきている。今はゲームとか、いろいろ子どもたちがやる刺激的なことがたくさんあって、本を余り読まなくなってきているのではないか。ということは、やはりボキャブラリーがすごく不足しているのではないかと思ったりするわけです。

私は言葉を仕事にしている、常日頃文章を書いているものですから、すごく言葉を大事に考えていますし、私自身もこれに困っているということ。例えば、表現しようと思うけれども困っているだけでは脳がない。何かもう少し気のきいた表現はないだろうかとか、毎日毎日そういうことで苦しんでいるのですが、そういういろいろなボキャブラリーは、やはり本を読んだり、人の話を聞いたり、そういうところからふえてくるのだと思います。どうもそういう経験が減っているのではないかと思います。

あと家庭でも年上の人とか、おじいさん、おばあさんとかが余りいなくなって、敬語を使う必要がある場面が少なくなっているのかなと思います。世間一般にきちんとした日本語を余り使わなくて済むようになってしまった。「タメ口」というような言葉もありますけれども、きちんとした敬語も含めて、そういう日本語を習得する機会が減っているのかなんて思っています。何かその辺の日本語能力をやはり何とかして、もっとかさ上げしないといけないのではないかと常日頃感じているところです。

小林委員長

今、大島委員からのお話ありがとうございました、それに対してでも結構ですし、また何かほかにありましたらどうぞお願いいたします。

田辺委員

私も大島委員と同感です。本当にやはり物事を考える基礎は日本語、語学力だと思いますので、今の若い人たちはほとんど新聞も読まなかったりとか、インターネットで何でも物事を読んだり、あるいは調べごとほとんどインターネットで検索したりしています。ですので、活字を読まなくなる、画面で入ってくるということと、やはり一つ一つの文字面を読むというのは、非常に違うのではないかと思います。

本当に子どものとき、小中学生の時代に活字に親しみ、本に触れ、また人といろいろコミュニケーションをとるといった経験を大切にしていけることが大事だとつくづく感じているところです。その辺は学校でも様々取り組んでいますが、家庭とか地域と協力しながらそ

ういう取り組みをしていくことが非常に大事だと思っています。

また、少し観点が違いますが、先ほど指導室長から、今の授業の風景は、私たちあるいは私の子どもがもう30歳になりますから、私の子どもが受けてきた教育の内容とも今の教育は多分違うだろうと思っていますが、様々な体験を子どもたちに経験させながら、いろいろな資料を提供して、それで考えさせるという授業をいろいろ工夫して、各学校はやっているわけです。それを理解していくためには、やはり基礎・基本が非常に大事になるわけです。

基礎・基本も教えながら繰り返して反復という話がありましたが、体験的な活動も行うということであれば、やはり限られた時間の中でそれを両方やっていくには、限界があることになります。ですので、家庭の中で学校から宿題という形で出すのか、あるいは家庭の協力を得て子どもたちに自主的な学習をさせるということでは、基礎・基本をきちんと押さえていくのは、家庭の協力なしにはこれからは取り組んでいけないのではないかと、先ほど指導室長のプレゼンテーションを聞きながら思っていたところです。

そうしたことできょうのテーマである家庭、学校、地域で支える学力ということになるのではないかと考えています。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。

高木委員

やはり知・徳・体とありますが、保護者が一番期待を学校にするのは学力の向上です。というのは、私も今、高校1年生と小学校6年生の子どもがおりますが、一番期待するところです。

残念ながら区の調査では、思ったような数字の伸びにはなっていませんが、逆にいいますと、今のその報告を聞いていて、国語と算数に関して結構いい、その目標に近いのが出ていると思います。

教育長のお話にもありましたように、やはり国語、母語で物事を考えることがしっかりできているということは、小学校、中学校の段階でいろいろな下地ができているのかなと思います。また、算数・数学に関しては、きょうは少人数のクラス分けをやっていましたが、中野区は大変ここに力を入れていて、一つ、その施策の効果が出ているということは、全部がだめなのではなくて、いろいろな点でやってきた中で効果が出る場所もあると思います。

ただ、社会、理科あるいは英語で目標値にいかない。ただ、この目標値の設定も、目標を設定してクリアしたパーセンテージ、7割通過していれば合格というのは、私も最初聞いたときはなかなかわからなかった。ただ、これは我々が自分たちで設定した数値ですから、当然クリアするに越したことはないはないと思いますが、これから社会あるいは、先般ノーベル化学賞を取りましたけれども、そういったことも含めて、中野区が今まで図書室の充実とか読み聞かせ、あるいは少人数指導というのをやっていて一定の効果があった。

では、これから社会と理科あるいは英語はどういうことをやっていくのかというのは、やはり大胆な施策を教育委員会としても出して行って、ぜひ盛り返していきたいと思います。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。

大島委員

一つ、さっき言ったことと少しまた違う観点で先生方の授業についてです。若い先生がふえていることもあって、授業力というのがまだそんなに鍛えられていない先生方も多い。そういう若い先生に授業力をつけさせることについては、研修もやっていますし、中野区でもいろいろ取り組んでいると思います。だんだん力をつけていくものだと思いますが、やはり殊、学校教育という場面で見れば、先生方に頑張ってもらわなければいけないわけです。

私たちが学校を回っていますと、先生方は本当によくやっという印象は持つのですが、やはり子どもへの定着度という専門的な立場から見ると、またもう少し厳しい目で見なければいけないのかもしれない。その辺の先生方の力をアップさせることについて、もう一度復習のようになるかもしれませんが、中野区の指導室としてはどんなことをやっているとか教えていただければと思います。

指導室長

今、大島委員がお話をされたように、ここ10年近く教員が大量採用される時代になってきています。中学校はまだそこまでいっていませんが、中学校も少し大量採用に入ってきたというところがあります。そうした中で、若い先生たちの授業力をつけていかなければいけないということで、1年目は初任者研修というのですが、3年目、4年目まで一定のプログラムで研修をしています。

1年目は教員としてのいろはになりますので、授業だけではなくて例えば生活指導の仕

方ですとか、保護者会の開き方もそうですし、様々なことを勉強していきます。2年目以上は授業力をつけるための研修を多く設定しています。

具体的には、やはりきちんとしたプランを立てて、教材の準備もして、毎日できるようなことではないようなレベルまでやるのですが、そういうことを重ねることによって、授業のノウハウを習得していく。その授業はただ単に校長先生が見るのではなくて、ほかの先生たちにも見てもらって、いろいろな角度から助言・指導をもらうというようなこと。それを積み重ねていくことで授業力がついてくるのではないかと思っています。

中野区にマイスターという制度があります。もうベテランの10年選手以上の教員で、指導にも優れている先生をマイスターと認定します。それには一定の研修を受けてもらってから認定するわけですが、そういった先生に授業を見てもらうとか。また、そういうマイスターの先生の授業を見て学ぶようなことで、特に若手中心に設定しています。

あとそれ以外に各学校では、OJTといって日頃の業務の中で、例えば保護者会の開き方とか、移動教室の实地踏査をどのようにするかとか、そういうポイントを絞った形で経験のある先生が若い先生に教えていくというような仕組みの研修も行っています。

小林委員長

先ほどいわゆる家庭学習のこととか、学習習慣の定着ということもいろいろ取り上げられていましたが、放課後の子どもたちの生活で、例えば本区ではキッズ・プラザとかいろいろ放課後のそういった取り組みですね。子育て支援の一環も含めてあると思いますが、そういうところでの例えば、ただ遊んでというのではなくて一定の学習をさせるとか、そのような実態はいかがなものでしょうか。

副参事（幼児施策調整担当）

放課後のキッズ・プラザあるいはその他の子ども施設におきまして、お子さんの中には宿題あるいは塾に行く前の準備といったものをお持ちになって、職員に少し聞いてくることもあります。

また、学童クラブのお子さんなどについては、ご家庭の保護者の方から学童クラブにいる時間に宿題を済ませて帰宅してほしいといった要望もあります。直接教えることはなかなか難しいのですが、声をかけて宿題をするようにという連絡を受けているというところ、お子さんは自主的にそういった時間を決めて、お友達と宿題を一緒にやるといった、ご家庭と連絡をとりながら一定のお約束をしながら、勉強する時間を設けるといった様子も見ることがあります。ですので、そういったところも放課後の子どもの生活をする中で少しの

学力の向上につながる取り組みだと思っております。

小林委員長

ありがとうございます。まだまだいろいろこれは中身が盛りだくさんというか、私どももお聞きしたいこともたくさんあります。ここで会議の途中ですけれども、ただいまの協議のテーマに関して傍聴の方のご意見をお伺いするために、ここで一たん会議を休憩して、傍聴者発言の時間を設けたいと思います。

では、定例会を休憩いたします。

午後2時41分休憩

午後3時24分再開

小林委員長

それでは、定例会を再開します。

引き続き、各委員から質問やご発言等ありましたらお願いいたします。

大島委員

今の各校長先生方からのご報告、傍聴の方の貴重な意見を拝聴して本当にありがたいと思えました。校長先生方の取り組みについての報告は、大変各校とも素晴らしいと思って聞いていたのですが、本当に地域の方が協力してくださって、音読とかお話とかいろいろ子どもの話を聞いていただくという活動とか、自習についての見守りとかも大変ありがたいことで、まさに公立学校のいいところである地域で子どもを育てるというのを実践していただいております。またそういうことで核家族化している今の東京の中で、ご高齢の方たちとも触れ合えるのも本当に貴重な機会ですばらしいと思っています。

それから、子ども学芸員ということできちんと敬語を使って作品を説明するというのは、本当に素晴らしい、いいことだと思います。常日頃私も思っているのですが、学校を出るまでの間は何となく友達言葉で済んでいる。しかし、例えば就職して会社に入ったりすると、もう社会人ですから途端に敬語を使わなければいけなくなる。会社の中でもそうですし、例えば取引先とかそういう仕事の場面できちんと敬語も使い、何か自分の会社のことを説明するとか、いろいろなことを自分できちんと説明しなければいけないという場面が出てきます。常日頃、今の若い人たちはそういう力があるのだろうかと思いつつ心配してしまっているという現状ですが、そういうためにもそれこそキャリア教育ではないですが、学校で社会に出て通用するような表現力とか言語能力を身につける一助になればいいと思ったところです。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。

高木委員

傍聴の方の発言の中に塾の話がありました。私の小6の次男が今、塾に行っています。火曜日と木曜日は夜の9時過ぎまで、月曜日と金曜日は8時まで、土曜日は午前中、日曜日は朝7時半に家を出て帰ってくるのが夕方6時という状況です。勉強漬けで、時々「もう勉強するのは嫌だ」といって、妻とバトルをするという非常に不安定な中で、長男と私は非常に肩身の狭い思いをしています。

一方、私の属性としては私学の人間で、教育委員でもありますし、私自身は公立の小学校・中学校に行っていますので、教育に期待しているところは大きですが、私学はやはりそれぞれが建学の精神に基づいて、独自の教育をやるということで意義があると思っています。

アメリカの教育が全部いいというわけではないですが、何回か学校の関係でアメリカの大学、短大を訪問しました。そのときに小学校や中学校の状況も見ました。あるいはネイティブの教員と話をしていると、やはり落第と飛び級があるのは大きいと思っています。才能があるという言い方がいいのかどうかわかりませんが、特定の分野で優れている子はギフテッドと呼ばれて、場合によってはローティーンで大学に行くような環境です。

日本は社会的にみんな一緒というのが、よくも悪くも、そういう点ではやはり社会が一定のその学力を担保しているというのでいいですが、落第がないということになると、そこで質の保証は難しくなっていく。そういったところを公立の学校、特に公教育、義務教育の中で支えているのだと思っています。

話を取り留めなくなりますが、子どもの塾の勉強を直接見ている時間はないのですが、6年の夏休みになってくるといつの間にか妻がトイレに理科のプリントを張ったりしているのを見るとはなく見ていると、ここまで反復してやるのかとか、テスト、テストでやっていくのですね。

確かに基礎・基本は社会・理科はなかなか身につけにくいというのは、学校の勉強だけでは記憶とかに残りにくいのかもかもしれません。ただ、そこでこれだけ今やってしまって、燃え尽きないかという心配が一部であります。なので、きょういろいろな方のお話を聞いて、最初に学力とはということで指導室長から三つの要素と定義づけをしたのですが、やはりよくも悪くもだんだんぶれていって、皆さんそれぞれの学力観というのを話されたと

思います。

その中でやはりミニマムで公立の学校として必要な学力を担保していくのは、非常に難しいことだと思いますが、きょうのお話の中で特に地域の方とのかかわりの中で、子どもにやる気を持たせるというのが一番重要だと思いました。

私も短大で少し教えていますが、やる気を出させるのが一番難しいですね。卒業できないぞとか、単位を取れないぞという、一時は勉強する気は見せるのですが長続きしないですね。なので、キャリア教育という話もありましたが、そういった教育をこれから中野区の教育委員会としてどう向かい合っていくのか。難しい課題ですが、そこはやはり一番のポイントなのかと思います。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。

大島委員

ちょっと言い忘れました。傍聴の方の中で、学力が低い子を底上げするというのも大事だけれども、すごく進んでいる学力が高い子をもっと伸ばすということも大事なのではないかという趣旨のご発言があったと思います。

例えば、世界的な数学オリンピックなんていうのが行われているようで、金賞、銀賞とかを高校2年や3年の超一流の学校の生徒さんがとったとかというのを見ますと、やはりすごい学生さんがいるなと思います。そういうすごくできる子たちの英才教育みたいなことも、日本国全体の将来を考えると検討に値するかもしれないとは思っています。

例えば、アメリカなんかでは飛び級があるそうで、14から15歳で大学に入れるとかそういう例もあるといいますが、何か一定の基準で優秀な子たちだけを集めて英才教育をする。それでノーベル賞クラスのようなすごい頭脳を育てるということが、日本の国の方針として必要かどうかは検討に値すると思います。ただ、それは国全体でやらなければいけないことで、我々中野区としてだけがどうこうできることではないので、それはちょっと置いておく。我々中野区としてはやはり今の学習指導要領とかそういう中で、もちろんできる子のやる気もなるべく引き出してあげたいけれども、最低限落ちこぼれるような子をなくすというところで頑張るということで、今いろいろ検討しているという状況だと思います。

小林委員長

まだまだいろいろ私どももお話をしたいところがありますが、時間がかかり来ておりますので、私から2点だけお話をさせていただいて、先に進めさせていただきます。

一つは、きょういろいろと協議とか傍聴の方々、そして各校長先生方からのお話を伺って、非常に感じたことは、果たして私たちはよく世間一般で言われている子どもたちの学力が低下したというような見方をしているのだろうかということです。

実は先ほどの指導室長からの報告にもありましたように、知識・理解・技能という点では決して悪い数値ではない。これは日本全体もそういうわけで、実は読解力とか判断力とか、俗にいうPISA型読解力とか、この調査においてはどうも日本は劣っているという部分が明らかだと思います。

しかし、ちょうど2003年にそのPISAの調査が非常に注目されたのですが、同じ時期に行われていたTIMSSという数学・理科に関するいわゆる世界的な学力調査では、日本の学力は低下していないという結果が出ております。

ただ、その中の調査で注目に値することは、日本の子どもの学習時間、家で手伝う時間、さらにはテレビを見る時間はいずれもテレビが長かったり、逆にお手伝いをするという時間が短かったり、学習時間が短いとか、これははっきりと諸外国に比べると低い数値が出ているというのは、やはり真摯に受け止めなければいけない部分があると思います。

先ほどいろいろと表現力や読解力とか判断力の重要性とか、従来の知識とか理解とかの大切さという議論もありましたが、例えば多くの企業とか私の職場でも感じることは、表現力とか判断力とかそういった思考力というのは、実際に社会に本当に求められているわけです。その基になるのはやはり知識や理解がしっかりしていないとだめであるという点では、私は今の状況が低いからよくしようというのではなくて、いま大島委員からもお話があったように、いいものを伸ばしていくのだという発想をもっと持っていかなければいけないのではないかと強く思いました。

もちろん十分でないものを置き去りにするというではありません。それはそれでしっかりと手当てをして、補充をしたりすることも大事です。ただ、そればかりに精力を費やすのではなくて、伸びる者をもっと伸ばしていく。そこは先ほどの傍聴の方からもお話がありましたように、魅力ある公立学校をつくっていくという点では重要なポイントかと思っています。

もう一点は、先ほど来いろいろと校長先生方からのお話で共通していることで、地域との連携とか外部との連携で学校の教育を活性化していく点です。ただ、この点はよくよく考えてみると、それは非常に重要でさらに継続し、充実していただきたいことですが、もう一点、果たして中学校と小学校の中での協力とか連携がどうなのだろうか。この会の中

でも中学校の指導のあり方がどうも講義調だというような話がありましたが、私は講義調が決して悪いとは思っていません。ある意味では今の日本の学力のそれなりの水準なのは、そういったものをしっかりとやってきたからだと思います。

しかしながら、今の子どもたちの実態を考えると、それだけではだめだと思います。実はきょう午前中に山口校長先生から、本校の授業を見るにあたって、本校は比較的学力調査の結果はいいですが、ただその要因はまだまだこれからしっかりと考えていかなければいけないというお話がありましたが、はっきり申し上げると、小中連携教育の成果の一つのあらわれだと考えています。もちろんこの因果関係というのは十分証明できるものではないと思いますが、お互いに小学校、中学校のそれぞれのよさを生かして、子どもたちにそれを還元していく。その力があらわれた成果であると、私は胸を張って言うていいのではないかと感じています。

もちろん小中連携教育や一貫教育をやれば、全てが解決すると短絡的には思っていない。ただ、一つの風穴として、そういったことも今後公立学校の中でできることの大きな柱になるのではないかと考えているところです。

以上、いろいろとまだ学力についてはお話ししなければいけないことがいろいろあろうかと思いますが、本日のこの協議については終了させていただきます。

<報告事項>

<委員長、委員、教育長報告>

小林委員長

次に、委員長、委員、教育長報告に移ります。

私から、10月3日の第27回定例会以降の委員の主な活動について報告します。

10月3日金曜日、中野区立小学校PTA連合会との懇談会がありまして、全委員が出席しました。

10月11日土曜日、中野区中学校生徒理科研究発表会には、大島委員と田辺教育長が出席しました。

10月15日水曜日から16日木曜日にかけて、桃花小学校日光移動教室の視察には大島委員が出席をしております。

私からの一括報告事項は以上です。

各委員補足、質問等ご発言がありましたらお願いいたします。

大島委員

それでは、私からの小P連との懇談会については、ほかの委員からもご報告があるかと思しますので、私が行ったところのご報告をしたいと思えます。

まず、10月11日土曜日に行われた中学校生徒理科研究発表会に行っていました。もうずっとやっている催しですが、昨年から明治大学の中野キャンパスの立派なホールをお借りすることができるようになりました。大変立派なホールで生徒たちの発表もスクリーンを使ってできるようになりましたし、多分やりがいがあったのではないかと思います。14人の生徒さんの発表があったのですが、どの発表もすごく立派で大変おもしろくて、もう全部一つ一つ内容をご紹介したいぐらいですが、時間の関係でそうもいきません。

例えば、紫外線の効果と防止に有効なものについて、バナナに日焼け止めクリームを塗ったりして、その辺を調べるという研究とか、食べる物、食材を使って消しゴムのように消せるものがあるかというようなことで、ジャガイモ、竹輪、パン、ナス、コンニャクなどありますが、結果はナスが一番よく消せたというようなこととか。ブランコと振り子の関係について、ブランコが好きなのだがどうして揺れるのかというような仕組みを研究したとか。あとスピーカーとエンクロージャーとって後ろについている箱とスピーカー自体、その大きさと距離の関係で音がどう違って来るかとか。あと塩分濃度によるサビの実験というものもありました。釘を真水から塩100%まで5段階ぐらい濃度の違う水をつくりまして、どれにサビが出るかというような研究とか、いろいろおもしろかったです。

あと教育長賞を取った生徒さんの研究に、すずかけの木がガードパイプを食べるというのがありました。初台の付近に水道通りという通りがあるらしいのですが、その歩道沿いにすずかけの木がたくさん植えられているのですが、125本その脇に歩道と車道を分けるガードレールがあります。そのうち18本がガードレールのパイプをすずかけの木が巻き込んでしまうというか、その生徒さんは「食べる」と表現しますが、その木がガードレールのパイプを食べるとい現象が見られるそうです。いろいろな写真つきで、いろいろな形態で巻き込んでいる発表があったのですがびっくりしました。植物とはこんなふうに見えるのだろうかという、その木の成長というのにびっくりするような研究もありました。

それを聞きながら、去年も私はこの発表会を見たのですが、去年出てきた素粒子少年はどうしたかなと思ったのですね。物理のガウス加速器とかいうもので、私はそれ以上説明できないのですが、何か難しい発表をした少年がいました。素粒子がすごく好きでも、学校でそういう話ができる友達がなくて寂しいとそのとき言っていました。

どうしたかなと思ったら、やはりことしも研究発表会に出てきたのですね。去年その研

究で東京都の大会に出られたということで、そこで同じ話ができる友達が見つかって、本当によかったとかいう話をしていました。ことしは続ガウス加速器ということで、去年はネオジウム磁石と鉄の玉を使った加速の研究だったのですが、ことしはネオジウム磁石に対抗する電磁石を使った研究とかで、それ以上は私も内容が説明できないのですが、最後に自分がつくった円形の加速器の実物も持ってきてくれました。とにかくすごい研究で、この研究が中野区長賞をとりました。

先ほどできる子をもっと伸ばす教育はどうかなんていうお話が出ましたが、まさにここに出てきたような子どもたちは、理数系の能力がすごい子なので、これをもっと伸ばしてあげられたらいいと思ったところです。

長くなって申しわけないのですが、日光の移動教室の話はぜひしたいと思います。昨日と一昨日と桃花小学校の日光移動教室に行ってまいりました。移動教室自体は2泊3日ですが、私は1泊2日だけで失礼しましたが大変楽しかったです。

桃花小学校は日光に行くのは初めてだそうで、1日目はまず日光の木彫りの里というところで、特殊な彫刻刀があるのですが、それを使って小さなお盆に図柄を掘るというのを体験しました。

午後は東照宮を見学しました。夜はキャンプファイアをやりました。品川区の立派な施設をお借りできて、その庭でキャンプファイアを夜やりました。

2日目は湯ノ湖に行きまして、戦場ヶ原を午前中ずっと3時間ぐらい歩いてきました。何せ初めてなもので、先生方もまだ少し慣れていないところがあって、途中私も一緒にいたグループが違う道に行ってしまいました。それでおかしいねといって、途中でまた引き返したのですが、引き返す途中で先生方も後からいらっしゃって、その道は回り道になるけれども間違っているということでもないということで、少し回り道してみんなと合流できました。

そんなことで午前中に3時間歩きまして、午後は華厳の滝を見学しました。それで夕方ぐらいに宿に帰ってきました。桃花小学校の6年生たちはすごくいい子という失礼でしょうけれども、先生たちの教育がすごく行き届いていると感じたのですが、とにかく返事がいいのです。

例えば、いろいろな連絡事項があって、「では、次に何々します」というとみんなで一斉に「はい」、次にまた何々ですねという「はい」と、もうそれは低学年のころから行われているらしいです。すごく返事がいいし、集合するときでも私語とかおしゃべりとかない

のですね。ピシッと静かに集まるし、5分前行動というのがいつも決まりになっているらしいのですが、集合時間も私などはぎりぎりに行ったのですが、もう既にピシッと集まっていました。そんなことですごく行儀がいいのです。

でも、別に萎縮しているわけでもなくて、先生たちも厳しいときはすごく厳しく言うのですが、何かすごく仲がいい感じがしました。先ほどちらっとどなたかのお話にあった、子どもたちと教師との信頼関係が何かすごくできているような雰囲気を感じました。とてもいい状況だなと思いました。

しかも最後、私だけが帰るというので、庭でバスを降りてみんなが集合して、お別れの会を簡単にですがやっていただきました。ちゃんとそういうのも司会の人とか決まっています、私がちょっとお別れの挨拶をしたら、生徒代表の言葉とかちゃんとそういうのをお膳立てしてくれたりして、本当に教育が行き届いていると感じました。とても天気もよかったですし、日光は見るところもすごく多くてとてもいいと思います。

まだ中野区としては日光に行くようになったのはごく最近のことなので、これから多分いろいろ見学ルートとかそういうノウハウが培われていくのではないかと思います。長くなりまして済みません。

高木委員

10月3日に中野区立小学校PTA連合会の会長さん方と懇談会をしました。毎年行っている懇談で、いろいろ率直なご意見をお聞きしました。特に去年からの恒例になったので、各学校のPTAの会長さんが自分の家の教育方針や勉強で困っていることを簡単に説明してくれるというので、倍近く親近感が持てて、すごくよかったなと思います。

あと私は10月14日、15日、16日の3日間で子どもが行っている小学校の緑のパトロールというのをやらせていただきました。私の家の校区は療育センターアポロ園の前の信号が担当になっていまして、午前7時45分から30分間、緑色のジャケットを着て、黄色の横断中の旗を持って渡してあげるのですが、小学校と中学校の児童・生徒合わせて実は40人ぐらい、皆さん元気よく朝の挨拶をしながら通っていただけてよかった。子どもたちの顔が見られて非常に有意義な体験でした。私からは以上です。

教育長

特にございません。

小林委員長

はい。それでは、その他の報告事項は事務局からございますか。

指導室長

きょうはお配りしている各種資料の最後の「中野区親子元気アップ事業」開催のご案内というのをごらんください。

中野区では学力だけではなくて体力の向上にも様々取り組んでいるのですが、家庭で運動する機会を啓発していくという教育の一環として、毎年小学校の低中学年までのお子さんとその保護者を対象にした、運動に親しむという講座を開催しております。今年度は12月13日土曜日、中野区立本郷小学校の体育館を会場として、こういう催し物を開催しますので、もしお時間がありましたらぜひご参加いただければと思います。

また近くの方でこの対象となるご家族がいらっしゃいましたら、ぜひ宣伝をしていただければありがたいと思います。以上です。

小林委員長

ほかに報告事項がございませんか。

副参事（子ども教育経営担当）

ございません。

小林委員長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日は多くの皆様に地域での教育委員会を傍聴いただき、ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

これをもちまして、教育委員会第28回定例会を閉じます。

午後3時52分閉会